

§ 1 食品における「機能性表示」制度について

最近では食料品売り場に行くと、「体脂肪を減らすのを助ける」とか「おなかの調子を整えます」とか、健康の維持や増進に役立つ機能性が表示されている食品が目につくようになりました。今月はこの保健食品の機能食品についてご紹介します。

2015年に施行された食品表示法により、機能性を表示できる食品（保険機能食品）として、国の審査が必要な1)「特定保健用食品（トクホ）」と、国の規格基準に適合した2)「栄養機能食品」に加え、事業者の責任において科学的根拠に基づいた特定の保健の目的の表示が可能となる3)「機能性表示商品」が認められました。

特定保険用食品 (トクホ)	健康の維持増進に役立つことが科学的根拠に基づいて認められ「コレステロールの吸収を抑える」などの表示が許可されている食品です。表示されている効果や安全性については国が審査を行い、食品ごとに消費者庁長官が許可しています。
栄養機能食品	一日に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）が不足しがちな場合、その補給・補完のために利用できる食品です。すでに科学的根拠が確認された栄養成分を一定の基準量を含む食品であれば、特に届け出をしなくても、国が定めた表現によって機能性を表示できます
機能性表示商品	事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品です。販売前に安全性、機能性の根拠に関する情報などが消費者庁長官に届け出されたもので、消費者庁の個別の許可を受けたものではありません。

機能性表示食品としては、生鮮食料品での表示も認められるようになり、第一号で受理されたのは、JAみっかびが申請したみかんです。JAみっかび管内で栽培する「三ヶ日みかん」に含まれる「β-クリプトキサンチン」が、抗酸化作用が高く、老化防止につながり、骨粗しょう症のリスクを軽減する効果があることを明らかにし、機能性表示食品としての申請を消費者庁に行い、受理されました。出荷用の段ボール箱に機能性表示食品であることの表示や、その機能性の内容につき記載ができることになりました。

これをきっかけに生鮮食料品、農産物、野菜等でも機能性表示食品としての届出が提出されました。主な例としては、「大豆イソフラボン」や「GABA」、りんご由来の「プロシアニジン」、唐辛子に含まれる「ルテオリン」、魚介では、活黒瀬ぶりロイン由来「EPA、DHA」などが申請されております。岐阜県においても飛騨産ハウレンソウに含まれる「ルテイン」が光の刺激から目の網膜を保護する作用があり、機能性食品として認定を受けました。

(詳細は消費者庁のホームページに記載されています)
 今後も、この機能性表示食品が、産地のPRにも使われるものと思われ、どのような商品が出てくるのか楽しみです。



§ 2 新規有効成分“アシノナピル”「ダニオーテFL」新発売！

2020年10月に、日本曹達株式会社から新たな殺ダニ剤として「ダニオーテフロアブル」が発売されました。有効成分のアシノナピルは日本曹達が開発した新規系統の殺ダニ剤で、各種ハダニ類に優れた効果を示します。アシノナピルの作用機構は、抑制性グルタミン酸受容体作用と推測されます。

＜特徴＞

- ①新規の作用機構を有する殺ダニ剤です。
- ②ハダニ類に対して優れた効果を示します。
- ③ハダニ類のみに選択的に作用します。
- ④天敵、有用害虫への影響が少ないです。
- ⑤IPM(総合的病虫害・雑草管理)での活用に適しています。
- ⑥薬害の発生事例が少ないです。
- ⑦既存剤に対して感受性が低下したハダニ類にも優れた効果を示します。
- ⑧各種ハダニ類の全ステージに活性があります。
- ⑨温度変化による効果変動が小さいことから安定した高い効果が期待されます。



＜注意点＞

銅剤との混用や近接散布については、防除効果が低下する恐れがあります。本剤使用後に銅剤を使用する場合は、10日以上散布間隔を空けてください。銅剤使用後は、本剤の使用はさけてください。栽培管理(葉かき等)や生育(枯死、落葉等)によって銅剤を散布した葉が無くなっている場合には使用可能です。

＜適用作物：使用時にはラベル記載事項を確認してください＞

適用及び使用方法

■ダニオーテフロアブル

登録番号: 第24213号
有効成分: アシノナピル 20.0%

作物名	対象害虫名	希釈倍率	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	処理方法	アシノナピルを含む農薬の総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	収穫前日まで	1回	散布	1回
りんご	ハダニ類	1000~2000倍					
なし、おうとう、小粒柿果類		2000倍					
いちご、なす、すいか			100~300ℓ/10a		2回以内		2回以内

有用生物に対する影響

標名	処理方法	剤型	濃度・量	処理ステージ	成虫	次世代	実験機関
ミヤコカブリダニ	虫体+葉片散布	フロアブル	200ppm	成虫	影響なし	影響なし	日本曹達
スワルスキーカブリダニ	虫体+葉片散布	フロアブル	200ppm	成虫	影響なし	影響なし	日本曹達
チリカブリダニ	虫体+葉片散布	フロアブル乳剤	200ppm	成虫	影響なし	影響なし	日本曹達
タイリクヒメハナカメムシ	虫体浸漬	フロアブル	100ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達
タノカスミカメ	虫体浸漬 葉片浸漬	フロアブル乳剤	200ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達
コレマンアブラバチ	ドライフィルム法	フロアブル	200ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達
コレマンアブラバチ	虫体浸漬	フロアブル	200ppm	マミー	影響なし	未調査	日本曹達
セイヨウミツバチ	局所施用	顆粒 アゲン溶液	110μg/個体	成虫	影響なし	未調査	日植研
セイヨウミツバチ	経口投与	フロアブル乳剤	200ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達
クロマルハナバチ	経口投与	フロアブル乳剤	200ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達
マメコバチ	虫体散布	フロアブル	200ppm	成虫	影響なし	未調査	日本曹達

いちご、なす、すいか : 2000倍、100~300ℓ/10a
 かんきつ : 2000~3000倍、200~700ℓ/10a
 りんご : 1000~2000倍、200~700ℓ/10a
 なし、おうとう : 2000倍、200~700ℓ/10a

